

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年9月16日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.48】

革マルの党中央を代理する弁護士がJR総連側も弁護！

JR革マル派と革マル派の党中央との「対立」について、代表者による話し合いが持たれたことを紹介してきたが、果たして、「対立」はその後どうなったのか。坂入氏の拉致・監禁事件の収束にあたって、JR総連は何も述べていない。2000～2001年当時、機関紙「解放」での論文掲載をはじめ、「進撃」や「古文書クラブ」などを次々発行し、あれだけ騒いだ革マル派も、その後、JR問題についての言及はまったく見られなくなった。この突然の変容は、誰が考えてもおかしい。前々号で検証した本間氏の証言の続きを紹介したい。

(被告代理人)そこで話し合いが行われたということですが、その後、その対立というのはどういふふうになったんでしょうか。(本間)うやむやになったような感じです。[以上、No.46で既報]
(代理人)対立は解消されたということなんですか。(本間)はっきりは確認できませんが、2005年の確か12月だというふうに思いますけれども、JR総連に捜査が及んだときに、テレビにその弁護士が映っていたので、どうなっているんだというような思いで見えておりました。それからすると、やはり対立が終わったのかというようなことも考えさせられました。(代理人)今言われた弁護士というのは、ホテルで話し合いが行われたときに革マル派党中央を代理していた弁護士のことを指しているわけですね。(本間)そうです。(代理人)それが2005年になるとJR総連の代理人になっていたと、こういうことですか。(本間)そうです。(代理人)すると、なんだこれはというふうに思ったということですか。(本間)その通りです。

JR総連と革マル派との対立はどうなった？ 尽きない弁護士を巡る矛盾！

この証言通り、2005年12月7～10日、警視庁は「目黒さつき会館」内のJR総連事務所をはじめ、業務上横領容疑でJR総連関係先を家宅捜索した。この業務上横領容疑については改めて検証したい。そして12月7日のフジテレビの昼のニュースでは、「目黒さつき会館」にいるW弁護士(M法律事務所)の姿がはっきりと映っている。本間氏が証言する革マル派党中央を代理していた弁護士は、W氏であることは間違いない。拉致・監禁事件が発生するほど激しく対立していたはずのJR革マル派と革マル派党中央だが、党を代理する弁護士が、今度はJR総連側に就いているのは大きな矛盾だ。そもそも両者の対立がなかったか、対立があったとしても、現在は収束しているかのいずれかとしか考えられない。なお、W氏について、宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跎」には「(週刊現代裁判の)冒頭で松崎原告の代理人として「主尋問」を行ったW弁護士は、『JR東日本革マル問題』関連裁判ではお馴染みの弁護士で、余談だが、30年近くも前、かつて私が関係した『国鉄黒磯駅事件』の弁護をした人物である。そして、公安警察筋からの情報では、先に紹介した本間雄治氏の陳述書で『革マル派党中央を代理していた弁護士』というのも、このW氏であるようだ」と記述されている(p.109)。

W氏は「週刊現代」裁判、「JR東海・蒲郡駅事件の刑事裁判」、「JR東労組を良くする会」作成の「JR革マル派43名リスト」の裁判、JR総連元委員長の福原福太郎氏が書いた「小説労働組合」の裁判等でJR総連側の代理人を務めているが、これはどういうことか。弁護士の問題を巡り、JR総連への革マル派浸透の矛盾や疑惑が続々と出てくる。